

# 大学の世界展開力強化事業(2021年度選定) 東京海洋大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2021年度・(タイプA①))

持続可能な海洋開発・利用を実現する高度専門職業人養成プログラム ―オケアヌスプラス―

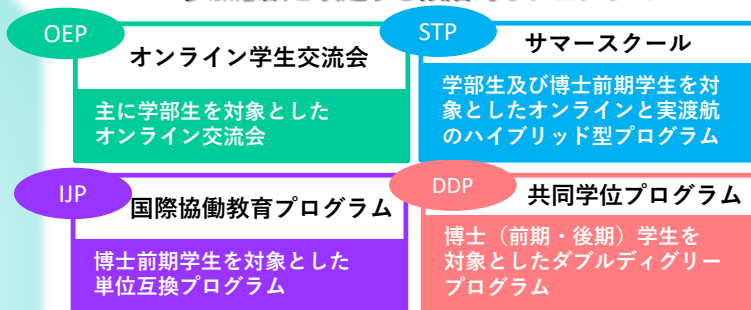
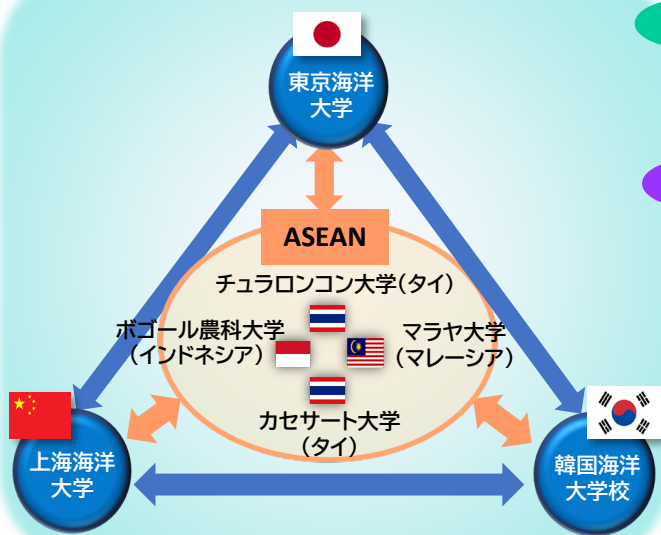
【交流推進事業の概要】

## オケアヌス(OQEANOUS) プラスプログラム

Oversea Quality-assured Education in Asian Nations for Ocean University Students Plus

広く海洋を共有する日中韓・ASEAN諸国

参加意欲を喚起する段階的なプログラム



綿密なコミュニケーションと外部評価による質の向上



【交流プログラムの概要】

中長期的視点を踏まえた持続可能な海洋開発・利用を推進するためには、日中韓のみならず広く海洋を共有するASEAN諸国を含めた広域のアジア経済圏の中で、相互理解と緊密な連携の下、共有する諸問題を解決していく必要がある。

本プログラムは、2016年にキャンパスアジア第2モードの採択を受け開始した『日中韓版エラスムス』を基礎とした海洋における国際協働教育プログラム(通称:オケアヌスプログラム)の成果を引き継ぎつつ、日中韓海洋系3大学のコンソーシアムを海洋国家として重要な位置づけにあるASEAN諸国にまで拡大し、日中韓、ASEAN諸国一体となり、SDGs達成に向けた戦略に対応できる高度専門職業人育成を通じて、アジア諸国の海洋産業の安定と発展に寄与するとともに、アジア経済圏の海洋分野における本学及びコンソーシアム参加大学の世界的なプレゼンスの更なる向上を目的とする。

【本事業で養成する人材像】

人材育成目標:「SDGs達成に向けた戦略に対応できる国際的な高度専門職業人」

具体的には、海洋をフィールドとする産業界において、特にアジア諸国の海洋国家で共有する課題を正しく認識した上で、専門分野にとらわれることなく解決策を立案し、チームとしてプロジェクトを遂行することで産業構造の変革を牽引できる人材

【本事業の特徴】

- ▶ 大学院レベルでの質の保証を伴う教育交流プログラム実現に向けたガイドライン構築  
「エラスムス計画」の手法を取り入れつつ、各国の大学院教育の独自性を保持した7大学統一基準の単位互換システムである「CTSEA Plus ガイドライン(仮称)」、教育内容を可視化するコースカタログの他、派遣前に学生と両大学間で締結するラーニングアグリーメントの様式を構築し公表。
- ▶ オンラインと実渡航を融合した効果的かつボーダレスなプログラムの提供  
実渡航のみであったプログラムにオンラインを融合。導入から体験を経て、単位互換、共同学位取得まで、学部低年次から博士後期課程まで段階的に進めることが可能な「学習効果の高い」「参加へのハードルが低い」プログラムを提供。
- ▶ ダブルディグリープログラムを博士後期課程まで拡大  
第2モードで博士前期課程学生を対象に構築した共同学位(ダブルディグリー)プログラムを、博士後期課程まで拡大し、オンラインを有効に活用した学位論文審査システムを構築。

【交流予定人数】

		2021	2022	2023	2024	2025
派遣	実際に渡航する学生	1	8	10	11	11
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	5	0	0	0	0
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	5	5	5	5
受入	実際に渡航する学生	0	8	11	11	11
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	22	22	22	22
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	10	10	10	10

# 1. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【事業の名称】(採択年度 令和3年度 タイプA①)

持続可能な海洋開発・利用を実現する高度専門職業人養成プログラム ―オケアヌスプラス―

## ■ 交流プログラムの実施状況



オケアヌスプラス合同説明会 & オンライン学生交流会(OEP)



キャンパスアジア第2モード「オケアヌスプログラム」で構築したスキームを元に、先行して日中韓3大学間で、単位互換を伴う1 Semesterの相互派遣プログラムである国際協働教育プログラム(IJP)及びダブルディグリー取得を目的とする共同学位プログラム(DDP)の2022年春学期派遣を実施した。また、新たな取組として、オンライン合同説明会と併せてオンライン学生交流会(OEP)を開催(3月17日～18日)し、各大学の紹介、学生交流、リアルタイム型の模擬授業を実施した。

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

- ・韓国海洋大学校(KMOU)にIJP参加学生2名を派遣(2022年2月～)
- ・オンライン合同説明会&OEP(2022年3月17日～18日)に、本学から学生20名が参加

### ○ 外国人留学生の受入

- ・KMOUからIJP参加学生1名の受入申請を受付。  
(日本の入国制限の影響で辞退申請があり受入には至らず)
- ・オンライン合同説明会&OEP(開催日同上)に、本学以外の6大学から学生61名が参加。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	6	22
学生の受入	0	61

※ オンラインプログラム(OEP)の参加者については、本学の参加学生数は「派遣」に、他の6大学の参加学生数は「受入」に含めている。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### 【検討の場の構築】

本プログラムの枠組み構築及びプログラム実施に向けた検討の場として、参加7大学の教職員・コーディネーターで構成する「オケアヌスプラス協議会」、及び協議会の円滑な遂行を目的とした日中韓の3大学のみで構成するサブミーティングを設置し、協議会を4回、サブミーティングを3回オンラインで開催した。

### 【単位互換ガイドラインの検討】

2022年度秋学期のASEAN4大学を含む7大学間のIJP開始に向け、第2モードで構築した日中韓3大学共通の質の保証を伴う単位互換システム「CTSEA(Credit Transfer System in East Asia)ガイドライン」をベースとして、ASEAN4大学を追加した新たなガイドライン(仮称:CTSEAA)の構築を、協議会の場を活用して進めた。



第1回オケアヌスプラス協議会(2021年12月)

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

日中韓トリリンガルのコーディネーターを配置し、SNS等を活用して派遣先のKMOUと派遣手続、授業科目の選択、教員マッチング、入国時対応に関するこまめな調整を実施した結果、コロナ禍の中でもスムーズな学生派遣を実現できた。また、留学中の安全対策への意識向上のため外部機関の協力を得て海外渡航に関する危機管理セミナーを開催し、派遣学生への参加を義務付けた。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本プログラム専用公式サイトを2022年3月に開設し、学内外に各種イベントやプログラムの情報発信に活用している。2022年度には、完成予定の新たな単位互換のガイドラインや各種様式を掲載し一層の充実を図る。

## ■ グッドプラクティス等

- 2022年秋学期の参加7大学によるIJP相互派遣実施に向け、日中韓及びASEAN4大学共通の質の保証を伴う単位互換システム(仮称:CTSEAA)の構築を進めた。完成したガイドラインは、今後他の中、韓、ASEAN諸国の大学との交流にも活用することを想定している。
- オンライン学生交流会(OEP)をオンライン合同説明会と併せて開催することで、単なる学生交流の場で終わらせることなく、各大学の紹介やリアルタイム型の模擬授業への参加を通じて、実渡航を伴うIJP及びDDPへの参加意欲向上や具体的な参加イメージの構築に有効な取り組みとすることができた。